

尼崎西RC浦上様、ようこそいらっしゃいました。どうぞ例会をお楽しみください。

本日の卓話は麻野エレクトのPETS報告です。昨年3月から一年が経ち、本当に月日が経つのは早いものです。

3月18日の川崎(孝)会員歓迎会・会員サービス委員会IMは3時間半盛り上がり、参加して頂いた会員の皆様有難うございました。

選抜野球大会が始まり、この大会からタイブレーク制が導入されており、延長は12回を終えて同点13回から無死1、2塁打順の前の回から続く「継続打順」で始め決着がつくまで続きます。

ただし決勝だけは地方大会・夏の甲子園大会も含め、延長15回まで行い同点の場合は引き分け再試合とします。しかし再試合でタイブレーク性を通用します。

導入された大きな理由は投手の肩肘などのけが予防があります。

しかし投手一人で延長12回投げれば、かなりの球数になり、本来であればWBCでも球数制限があるように、球数制限や投球数の制限が一番ベストだと思いますが、選手層の厚い私立に対して、公立はエース頼みのケースが多く、実施には無理があるようであります。

甲子園球場の野球場のルールですが、高校野球では白線が引かれていますが、プロ野球に於いては引かれません。この線「ダートサークル」という名称で、皆様振り逃げというルールを知っていると思いますが、第3ストライクの空振りした時、振り逃げ可能な打者が一塁を入ろうとせずにダートサークルから外に出た場合、球審は直ちに打者にアウトを宣告します。

プロ野球の場合は、ラインが引かれていませんが、ダートサークル26フィート円を仮想し、それを超越したかどうか判断は審判が行います。

現在プロ野球ホームグラウンドほとんどが人工芝の球場で既存のサークルがそのまま利用されています。ただし日米野球シリーズ、日本プロ野球80周年記念(2014年)では、甲子園球場で行われま26す。

プロ野球で初めてダートサークルを採用しています。

こういう野球の勉強を続けたいと思いますので、よろしく願い申し上げます。